

日本のキャッシュレスの未来

G3班

序論

近年、「キャッシュレス」という言葉をよく耳にする。スマートフォンの普及に伴い、キャッシュレスについてのCMや広告が増え、日本政府も消費者還元事業を行っており、日本国内でキャッシュレス化の機運が高まっていると言える。しかし、日本のキャッシュレス普及率は他国と比べ高いとは言えない。

そこで、現在よりも日本でキャッシュレス決済を普及するための方法を考察していく。

結論

これからの日本政府には、大企業はもちろん、中小企業や小売店との連携を積極的に図るための政策、また、国民の意識を脱現金に向けるための大胆な政策をとる必要があると考える。私たちは、韓国のようにキャッシュレス決済を行うことにより国民に大きなメリットが生じる制度を企業との連携の元に作ることを具体的かつ現実可能な政策として提案する。

海外の現状

韓国では所得控除政策により現金で支払うよりも、クレジットカードで支払ったほうが、国民が収めなければならない税金の金額が少なくなっている。また、宝くじ参加権の付与により、消費者が店舗でクレジットカード決済をした際に、その購入額が1,000円を越えると、レシートに宝くじの抽選番号が付与され、その当選金である一億八千万円が手に入る可能性がある。

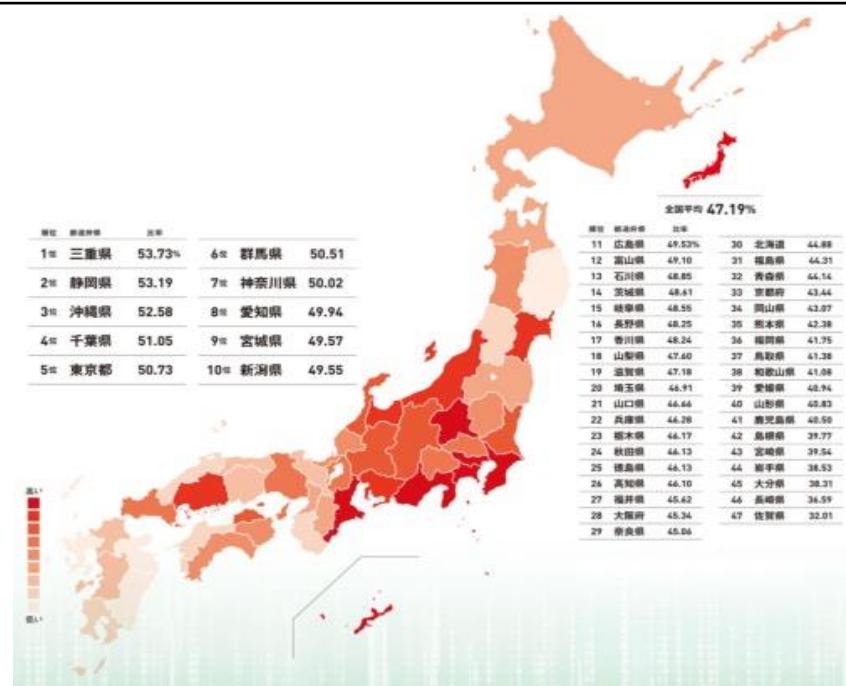
スウェーデンでは脱現金化が進んでおり、北欧ゆえに冬季の現金輸送にコストがかかることに加え、90年代初頭の金融危機を契機に、国を挙げて生産性向上に努めてきた。また、国だけでなく、企業も可能な限り現金を使わないような環境を整備している。

| 韓国 | キャッシュレス比率(※) | | | 同期間におけるキャッシュレス化進展の施策例 |
|---------|--------------------------------|-------|---------|---|
| | 2007 | 2016 | 07年→16年 | |
| 韓国 | 61.8% | 96.4% | +34.6% | ✓ 非現金決済利用時の消費者向け還元制度の拡充(還元率や対象の拡大) ✓ 小規模加盟店向け加盟店手数料の規制 |
| イギリス | 37.9% | 68.7% | +30.8% | ✓ ロンドン五輪(2012年)を契機とした政府主導の非接触決済(デビットカード)普及促進、決済インフラを担う専門組織による決済の高度化 |
| オーストラリア | 49.2% | 59.1% | +9.9% | ✓ 国産決済サービス(デビットカード)EFTPOSの非接触決済対応 ✓ インターチェンジフィー等の手数料規制 |
| シンガポール | 43.5% | 58.8% | +15.3% | ✓ 国家の電子化に早くから取り組んでいたほか、近年政府による「スマートネイション構想」のもと、キャッシュレス社会実現にかかる施策を推進中 |
| カナダ | 49.0% | 56.4% | +7.4% | ✓ 政府によるペニー硬貨の廃止や小切手の廃止 ✓ 低廉なインターチェンジフィー水準に関する当局と国際ブランドとの合意 |
| スウェーデン | 41.9% | 51.5% | +9.6% | ✓ 政府による脱現金社会に向けた法的な手当て(ex.店頭での現金決済お断り等) |
| アメリカ | 33.7% | 46.0% | +12.3% | ✓ VISA・MasterCardが中心となりカード決済普及を促進、近年は非金融事業者による決済サービスが普及 |
| フランス | 29.1% | 40.0% | +10.9% | ✓ 現金支払い上限(1,000ユーロ)の設定 ✓ インターチェンジフィー規制の導入 |
| インド | 18.3% | 35.1% | +16.8% | ✓ 国産のデビットカードシステムRuPay開発・普及促進のほか、加盟店手数料の上限設定 ✓ 政府主導で「デジタルインド計画」を推進中 |
| 日本 | 13.6% | 19.8% | +6.2% | ✓ 電子マネーの利用が拡大しているものの、引き続き現金志向が強く、キャッシュレス化進展せず |
| ドイツ | 10.4% | 15.6% | +5.2% | ✓ 現金志向が強く、キャッシュレス化進展せず |
| 中国(※※) | (参考) 約40%(2010年) → 約60%(2015年) | | | ✓ 北京五輪(2008年)を契機とした政府主導の銀聯カードの普及促進 ✓ インターチェンジフィー・加盟店手数料等規制によるアクセプタンス促進 |

(※) キャッシュレス比率は、(カード決済(電子マネー除く) + E-money決済) / 家計最終消費支出により算出(ともにUS\$ベースで算出)
(※※) 中国については、Better Than Cash Allianceのレポートより参考値として記載

日本の現状

日本でキャッシュレス化が進まない理由として現金への信頼性が高いことが挙げられる。日本国内は治安が良く偽札が少ないことによりキャッシュレスに頼る必要がない。また、キャッシュレス決済が使える店舗が限られていることも大きな要因の一つだ。右の図から、地域格差があることもわかる。都市部ではキャッシュレス決済の加盟店などが多く、交通網も発達していることからキャッシュレス決済やICカードの利用者が多くいることがわかる。



参考文献

- <https://insight.infcurion.com/global/cashless-worldtrip-vol6/>
- https://www.lifehacker.jp/2019/04/cashless_merit_demerit.html
- 株式会社日経リサーチ 「キャッシュレス決済実態調査」
- 博報堂生活総合研究所「お金に関する生活者意識調査」
- 「キャッシュレス・ロードマップ」
- <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/senmon/dai14/siryou2-1.pdf>
- 経済産業省 「キャッシュレスの現状と今後の取組」